

開館 20 周年特別企画展 生誕 110 年 田中一村展

10th Anniversary  
of the Birth  
Tanaka  
ISSON20<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY  
SAGAWA ART MUSEUM

## 【開催概要】



① 《初夏の海に赤翡翠》1962 年頃  
田中一村記念美術館蔵

開館20周年特別企画展

生誕 110 年

## 田中一村展

7月14日[土] - 9月17日[月・祝]

公益財団法人佐川美術館では、開館 20 周年記念の特別企画展「生誕 110 年 田中一村展」を開催いたします。本年は田中一村（1908-1977）の生誕 110 年にもあたり、関西では 10 年ぶりとなる大規模な田中一村展を観覧できるまたとない機会になります。

田中一村は栃木に生まれ、幼少期より南画（中国の南宗画に由来する絵画）を描き、1926 年に東京美術学校へ入学します。学校は 2 ヶ月で退学し、それ以降は特定の師にはつかず、独学で画家人生を歩み、千葉で 20 年間ひたすら写生に没頭します。そして、新しい創作への道を模索する中で、奄美大島へ渡り亜熱帯の植物や鳥などを題材にした日本画を描き、独自の画業を追い求めていきますが、生前それらの作品を発表する機会もなく無名のままこの世を去ります。

本展では、生誕 110 年を迎える孤高の画家・田中一村の幼少期から青年期にかけての南画、南画との決別から新しい日本画への模索、そして琳派を彷彿とさせる奄美の情景を描いた作品まで、各時代の代表作を含む 150 点以上の作品により、「本道と信ずる絵」を求めた彼の創作の軌跡と一村芸術の真髄に迫ります。

## 展覧会実施概要

- ◆開館時間：午前 9 時 30 分 ～ 午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- ◆休館日：月曜日（祝日の場合は翌火曜日、8 月 13 日は開館）
- ◆入館料：一般 ¥1,000 (¥800) / 高大生 ¥600 (¥400) ( ) 内は 20 名以上の割引料金  
中学生以下は無料 ※ただし保護者の同伴が必要  
※専門学校・専修学校は大学に準じる ※障害者手帳をお持ちの方(要手帳提示)、付添者(1 名のみ)無料

[主催]公益財団法人佐川美術館 [後援]滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、NHK 大津放送局、NHK 出版、関西奄美会、中部奄美会 [特別協力] 田中一村記念美術館、栃木県立美術館、奈良県立万葉文化館、千葉市美術館、とちぎ蔵の街美術館 [協力] 大島細美術館、株式会社ジャパンヘルスサミット、スタジオ康作アイズ、町田酒造株式会社、バニラ・エア株式会社、SG ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

開館 20 周年特別企画展 生誕 110 年 田中一村展

## 展示構成

**第一章 青少年時代、若き南画家** (1915～1930 年 : 7 歳～22 歳)

神童と呼ばれた幼少期から青年期にかけて、南画の世界で名を馳せた米邨（一村改名前の雅号）。本章では「海上派」と呼ばれる中国・上海書画壇の趙之謙や呉昌碩の影響を受け、力強い筆致と伸びやかな墨線で描かれた一村の南画作品を中心に展観。全長 5m に及ぶ《墨梅長巻》をはじめ、晩年の奄美作品を彷彿とさせる《蓮図》など、若くして才能を開花させた一村芸術の揺籃期を紹介します。

② 《つゆ草にコオロギ》1921 年 個人蔵

**第二章 千葉時代、新しい画風の模索** (1931～1946 年 : 23 歳～38 歳)

23 歳の時に南画と決別し、「本道と信ずる絵」と考える新しい絵画への挑戦を目指した一村。支援者から賛同を得られないまま寡作の時代が続き、30 歳で母方の親戚を頼って千葉に移住します。千葉では 20 年間ひたすら農村の風景、自然の景色、動植物の写生に没頭し、日々のスケッチから新しい画風への模索がなされ、後に奄美で描く花鳥画の基礎を身に付けます。本章では、叙情豊かに描き出した千葉の情景を中心に紹介します。

**第三章 一村誕生** (1947～1957 年 : 39 歳～49 歳)

1947 年に《白い花》で画壇へのデビューを果たすとともに米邨から一村へと改名。この頃から日展や院展など画壇への挑戦を試みるも、ことごとく落選の憂き目にあった一村は、画壇と決別し、独自の画道を邁進します。本章では、南画で獲得した自由な筆さばき、千葉時代の写生で培った自然観察をもとに描かれた大作《秋晴》、奄美作品の原型を見ることができる《忍冬に尾長》などを展観します。

③ 《秋晴》1948 年 田中一村記念美術館蔵

**第四章 奄美時代、旅立ちと新たなる始まり** (1958～1977 年 : 50 歳～69 歳)

50 歳にして住み慣れた千葉を引き払い、新天地・奄美大島へ渡った一村。紬工場で染色工として生計を立てながら、69 歳で亡くなるまでの 19 年間、奄美の大自然の情景や色鮮やかな花鳥画を描きます。本章では、晩年の代表作《アダンの海辺》（期間限定公開）をはじめ、一村独自の構図・色彩感覚をもとに描かれた日本画の新境地とも言える奄美作品を紹介します。また、奄美行き資金準備のために描いた襖絵の大作など、一村芸術の集大成をご覧ください。

④ 《枇杷樹の森に崑崙花》1960 年代前半 田中一村記念美術館蔵



## みどころ

## ■神童・米邨の画家としてのプライド

田中一村は、彫刻家であった父・田中稲村の手ほどきによって、幼少期から神童と呼ばれる程に画才を発揮します。7歳の頃には、父から「米邨」（稲村の「稲」から「米」が実る意）の雅号をもらい、本展出品の《菊図》にも「八童米邨」（数え年8歳の米邨）という署名が見られます。この《菊図》には落款の下の部分が切り取られており、父・稲村が手を入れたのが気に入らずに、その部分を破いたという逸話が残される程、この頃から既に高いプライドを持っていたことが窺い知れます。本展では、若描きながら既に一流の画家を思わせる青少年期の作品にご注目ください。



⑤《菊図》1915年 個人蔵

## ■代表的な襖絵の大作を公開

田中一村は、「パンのため」（生活のための意）の絵を描くことを良しとしました。あくまで自分が描きたいものだけを描くというスタンスをとった一村ですが、支援者の注文を受けて襖絵や屏風を描くこともありました。特に最大の支援者とも言える医師・岡田藤助氏の注文で描いた襖絵は、一村が奄美に行くための大きな資金源となりました。本作品は、琳派を彷彿とさせる梅や草花の絵が描かれており、旧家の客間を彩った一村最大級の作品として注目されます。また、8面の襖からなる《四季草花図》は、四季折々の草花が見る者を圧倒するほど豪快にして、品格漂う筆致で画面いっぱいに描かれ、一村の類い稀な才能を見て取ることができます。



⑥《四季草花図》（旧襖）1950年代 大島紬美術館蔵



## ■晩年の最高傑作《アダンの海辺》を期間限定で公開

田中一村の代名詞と言えば奄美の情景を描いた作品ですが、その中でも一村が「閻魔大王への土産」と称して生涯手放さなかった作品が《不喰芋と蘇鉄》と《アダンの海辺》と言います。本展では、期間限定で《アダンの海辺》を特別公開します。南国特有の植物・アダンをメインモチーフに、絹地に描かれることで、日本画独特の柔らかい風合いで表現されています。一見すると洋画の雰囲気にも似た色使いに、一村が求めてきた新しい日本画の集大成を見ることができます。公開は7月14日（土）から8月19日（日）までなので、この機会をお見逃しなく！

⑦《アダンの海辺》1969年 個人蔵（千葉市美術館寄託）

開館 20 周年特別企画展 生誕 110 年 田中一村展

Tanaka  
ISSON

100th Anniversary  
of the Birth  
20th  
ANNIVERSARY  
SAGAWA ART MUSEUM

### 関連イベント紹介

#### 記念対談

大矢鞆音氏（本展監修者、美術評論家）× 新山宏氏（田中一村甥、著作権継承者）

日時：7月14日（土）14：00～

定員：100名（先着） 参加費：無料 ※但し入館料は必要

会場：樂吉左衛門館ロビー

#### 記念講演会

松尾知子氏（千葉市美術館上席学芸員）

日時：8月19日（日）14：00～

定員：100名（先着） 参加費：無料 ※但し入館料は必要

会場：樂吉左衛門館ロビー

#### ワークショップ

##### ①一村みたいに和風トロピカルなしおりをつくろう！

（自由参加制）

奄美大島の地で亜熱帯の植物や鳥を題材に日本画を描いた田中一村にちなんで、南国風と和風がコラボレーションしたしおりをつくります。

日時：8月3日（金） 10：00～15：00

定員：なし（材料が無くなり次第受付を終了します）

対象：幼児～中学生まで 参加費：無料（別途入館料は必要）



##### ②日本の伝統・和紙でうちわをつくろう！

（事前予約制）

田中一村も団扇に絵を描いたように、日本古来の文化・和紙を使用して、団扇を作ります。団扇には、顔彩という絵の具を使って、日本画を描いてみましょう。

日時：8月4日（土）・5日（日） 各日 10：00～、13：30～

（制作時間：90～120分程度）

定員：各回 15名（先着順、要保護者同伴）

対象：小学生～中学生まで 参加費：300円

受付：7月3日（火）よりホームページの専用申込フォームまたはFAXにて受付開始。

※詳細は佐川美術館ホームページ「イベント情報欄」をご覧ください



---

---

### ●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データ（**キャプションが赤字の作品**）をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の**作品画像使用申込書（プレゼント用招待券申込付）**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。ホームページから画像申請も受け付けております。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会以外でのご使用はお断りしております。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

### ●プレゼント用招待券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効の**ご招待券を 10 枚**までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の**作品画像使用申込書（プレゼント用招待券申込付）**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

---

---

### ◆交通のご案内:

#### お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由（約 30 分）
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由（約 30 分）
- 名神京都東 IC から湖西道路（真野 IC）・琵琶湖大橋経由（約 30 分）

#### 鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車（約 35 分）
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車（約 15 分）

### ◆連絡先◆

公益財団法人佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員：井上 英明(いのうえ ひであき)

**[h\\_inoue005@sagawa-artmuseum.or.jp](mailto:h_inoue005@sagawa-artmuseum.or.jp)**

## 作品画像使用申込書

佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

申込日 2018 年 月 日

作品画像の露出・掲載 等ご使用にあたって の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 申請された方法、目的以外には使用しないでください</li> <li>● 掲載誌・紙は資料として 1 部以上お送りくださいますよう、お願い致します</li> <li>● その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください</li> </ul>
使用作品	<p> <input type="checkbox"/>1. 《初夏の海に赤翡翠》1962 年頃 田中一村記念美術館蔵  <input type="checkbox"/>2. 《つゆ草にコオロギ》1921 年 個人蔵  <input type="checkbox"/>3. 《秋晴》1948 年 田中一村記念美術館蔵  <input type="checkbox"/>4. 《枇榔樹の森に崑崙花》1960 年代前半 田中一村記念美術館蔵  <input type="checkbox"/>5. 《菊図》1915 年 個人蔵  <input type="checkbox"/>6. 《四季草花図》(旧襖) 1960 年代 大島紬美術館蔵  <input type="checkbox"/>7. 《アダンの海辺》1969 年 個人蔵(千葉市美術館寄託)                 </p> <p>                     ※ご希望の作品にチェックを入れてください。                      ※作品画像使用の際は、上記キャプションと下記著作権表記をお願いします。                      ※著作権マーク「 ©2018 Hiroshi Niiyama 」                 </p> <p style="text-align: right;">計 _____ 枚</p>
媒体名	
貴社名	
ご芳名 (ご所属)	( _____ )
ご連絡先	ご住所： (〒 _____ ) e-mail: TEL: _____ FAX: _____
発行 (掲出) 予定日	_____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 号
使用形態 (○印)	Web サイト / 印刷物 ( カラー / モノクロ )
招待券希望枚数	読者プレゼント用として、招待券 _____ 枚 ※ 枚数は 10 枚以内でお願いいたします。ご了承ください。